

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 2 月 4 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (2/4 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約1.9m ³ /h	18.3	106.7 kPa abs	A系: 0.00 vol%
		給水系:約2.4 m ³ /h			B系: 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.6m ³ /h	31.0	7.16 kPa g	A系: 0.04 vol%
		給水系:約2.0 m ³ /h			B系: 0.03 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系:約3.5m ³ /h	31.3	0.26 kPa g	A系: 0.17 vol%
		給水系:約1.9 m ³ /h			B系: 0.17 vol%

* 1: 絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

[1号機]・2/4 14:47 原子炉への注水量の低下が確認されたため、給水系からの注水量を約 2.4 m³/h から約 2.5 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 1.9 m³/h から約 2.0 m³/h に調整。

[3号機]・2/4 14:47 原子炉への注水量の変動が確認されたため、給水系からの注水量を約 1.8 m³/h から約 2.0 m³/h、炉心スプレイ系からの注水量を約 3.3 m³/h から約 3.5 m³/h に調整。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (2/4 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	12.5
2号機	循環冷却システム	運転中	13.2
3号機	循環冷却システム	運転中	11.6
4号機	循環冷却システム	運転中	22

* 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

[3号機]・1/28 6:58 ~ 使用済燃料プールにおける鉄骨トラス瓦礫の撤去作業に干渉する鉄骨を先行して撤去することに伴い、使用済燃料プール代替冷却の一次系を停止(停止時プール水温度:約 9.1)。当該瓦礫撤去作業について、夜間には行わないことから、1/28 ~ 2/1 の間、毎日当該冷却系を午前中に停止し、午後に再起動を実施。

当該瓦礫撤去作業が終了したことから、2/2 16:52、当該冷却系を最終起動。最終起動時のプール水温は、約 11.5 であり、運転状態について異常はない。

また、1/28 ~ 2/1 の冷却停止期間において、最高約 11.5 まで上昇したが、運転上の制限値 65 に対して余裕があり、プール水温度の管理に問題はなかった。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	3号機タービン建屋	1/27 13:47 ~ 2/2 9:55 移送実施
3号機	3号機 タービン建屋	集中廃棄物処理施設 [雑固体廃棄物減容 処理建屋 (高温焼却炉建屋)]	1/24 11:03 ~ 移送実施中

・H25/1/28 東北地方太平洋沖地震により、建屋および屋外トレンチが浸水している5・6号機について、建屋内の水位上昇を抑制するため、建屋内滞留水の移送を継続しているが、更なる安全性向上に資することを目的として、非常用ガス処理系*1の屋外トレンチから仮設タンクへの滞留水の移送を開始。なお、当該作業については、2月上旬まで、適宜、実施する予定。

*1 原子炉建屋内の空気を高性能のフィルターで浄化して排気筒より放出する系統で、(A)、(B)の2系列ある。

・H25/2/2 9:20 1号機復水貯蔵タンクの復旧作業の一環として、同タンク内に貯蔵されている水について、1号機廃棄物処理建屋への移送を開始。

15:25 移送を停止。1/28 から日中のみ移送を実施していたが、2/2 をもって移送を終了。

< 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (2/4 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)
運転状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスをみて 断続運転	水バランスをみて 断続運転

* フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8 ~ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

< 5. その他 >

・H23/10/7 ~ 伐採木の自然発火防止や粉塵飛散防止のため、5, 6号機滞留水の浄化水を利用し、散水を適宜実施中。

・H24/4/25 ~ 地下水による海洋汚染拡大防止を目的として、遮水壁の本格施工に着手。

・H25/1/8 ~ 4号機燃料取り出し用カバールのクレーン支持用架構および燃料取扱機支持用架構の鉄骨建方を開始。

・H25/1/24 10:46 運用補助共用施設(共用プール建屋)地下1階西側において、火災報知器の警報が発生し、その後、現場作業員より、煙が発生したとの情報があったことから、同日 10:59、消防署へ連絡。
除染作業で床を磨く清掃機器を使用した際、当該機器の付属電源ケーブルより発煙したことから、作業員がすぐに電源ケーブルを抜いたところ発煙は停止。その後、当社社員により現場を確認したところ、現場に火や煙がないことから、同日 11:15、火災報知器の警報をリセットした。
同日 12:38、消防署により鎮火確認をしていただくとともに、本件は火災であるとの判断をいただいた。本事象によるけが人は発生していない。現時点でプラントへの影響は確認されておらず、共用プールの冷却は継続中。また、モニタリングポストの値に有意な変動はない。
その後の調査で、電圧100Vの清掃機器に、電圧200Vの仮設照明用分電盤の仮設ケーブルを繋いで使用したことが、火災の直接的な原因であったことを確認。対策として、作業用電源を使用する場合は、当社監理員に対して使用前に許可を得ること、および使用電圧を確認することを、関係者を含めた作業員へ周知。

以上